

2025 年度 成人看護学援助論 I

No.

氏名

問1. 高血糖による身体症状について以下の文章の () に当てはまる言葉を下欄 a ~ zの中から選んでください。

血糖値が高くなると、腎臓での再吸収率が追いつかず、尿中に糖が漏れ出す。血糖値が (①) mg/dL 以上となると、尿中に糖が排出され、浸透圧利尿で尿量が増加する。尿量の増加により脱水状態となり、(②) が出現し、(③) 行動をとる。この②・③・(④) が高血糖の主徴となる。また、インスリンが不足するとエネルギー源として糖が使用できず、脂肪組織やタンパク質の分解が亢進し、(⑤^d) が発生する。同時に (⑥) や (⑦) などが生じる。また、血糖値が (⑧) ~ (⑨) mg/dL を超えてくると、好中球の遊走能や食食能の低下など、白血球やリンパ球の機能障害などから免疫機能が低下し (⑩) が高まる。

a. 食欲不振 b. 口渇 c. 低血糖 d. 体重減少 e. 肥満 f. 易疲労感 ✓ g. 下痢
h. 脱水 i. 壊疽 j. 多飲 k. 高浸透圧高血糖状態 l. ケトアシドーシス
m. 頻尿 n. 倦怠感 ✓ o. 易感染性 p. 多尿 q. 140 r. 150 s. 160 t. 170 u. 180
v. 190 w. 200 x. 210 y. 220 z. 250

答え① (a) ② (b) ③ (j) ④ () ⑤ (d)
⑥ () ⑦ () ⑧ (q) ⑨ (s) ⑩ (v) ※⑥⑦は順不同可

問2. 1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病について、正しいものを2つ選んでください。

- a 小児期に発症した糖尿病を総じて1型糖尿病という
- ☒ b 1型糖尿病は、自己免疫を基礎にした膵β細胞の破壊によって起こる。✓
- ☒ c 妊娠糖尿病は、糖尿病の女性が妊娠した場合をいい、胎児のために普段より厳格な血糖管理が必要になる
- ☒ d 2型糖尿病は、食生活の変化やライフスタイルの変化により年々増加し、糖尿病症例の約 80% を占める
- ☒ e 2型糖尿病でも、病歴の経過と共にインスリン分泌が枯渇したインスリン依存状態となり、インスリン注射が必要になる場合もある。

答え (b) (c)

問3. 糖尿病の慢性合併症（細小血管合併症）を3つあげてください。

() () ()

問4. シックデいの対応について、間違っているものを1つ選んでください。

- a 食欲が落ちたときでも、水分や電解質、食べやすいものをできるだけとるようにする
- b 高熱が続く、食事がとれない、血糖値が 350mg/dL 以上続く場合は医療機関を受診する
- c シックデイについて、患者本人だけでなく家族にも対応を指導しておくことが大切である
- ☒ d インスリン治療中の患者で食事がとれないときには、インスリンは原則中止とする
- e 安静・保温に努め、頻回に血糖測定を行う。

答え ()

問5. 糖尿病の運動療法について、正しいものを2つ選んでください (2点×2)

- a 運動の急性効果として、インスリン抵抗性が改善する ✓
- b 運動は、毎日できなくても、週に2～3回、合計150分以上することが望ましい。
- c 糖尿病腎症がある場合は、早期であっても運動療法は禁止する
- d 増殖前網膜症では、バルサルバ運動が有効である
- e 神経障害を有する場合は、靴の選び方も重要である ✓

答え (a) (e)

問6. 糖尿病患者の心理について、誤っているものを1つ選んでください。

- a 2型糖尿病と診断された場合は、特に驚きや怒り、諦めの感情を持つことはない
- b 社会における糖尿病の知識不足や誤ったイメージによる偏見をスティグマという
- c 毎回の受診時に血糖値やHbA1cといった、数値で自分の努力が評価されてしまうことも心理的負担となる
- d 糖尿病の治療において、家族の協力は大きな力になるが、患者をささえる家族自身も心理的な負担感を感じていることも少なくない。
- e 糖尿病を持つ人が、病気のことを隠さずに安心して社会生活を送り、人生100年時代の日本でいきいきと過ごすことができる社会形成を目指す活動をアドボカシー活動という。

答え (b)

問7. 脂質異常患者の生活指導について、適切なものを2つ選んでください

- a アルコールの過剰摂取を控え、50g/日以下に抑える
- b コレステロールは、鶏卵や魚卵などの卵類、肉類、レバーなどの内臓類に多く含まれるので、それらは極力摂らないようにする
- c 脂質異常症の療養に取り組むことは、心筋梗塞などの動脈硬化性疾患の発症予防につながることを説明する ✓
- d 喫煙は動脈硬化やがんのリスクになるので、患者には禁煙を勧めるが、受動喫煙はそれほど影響はない
- e n-3系多価不飽和脂肪酸の摂取を増やす

答え (c) (e)

問8. 糖尿病の合併症と指導内容の組み合わせで正しいものを2つ選んでください。

- a 単純網膜症 12ヶ月に1回の眼科受診 *
- b 糖尿病腎症第4期 タンパク質制限 0
- c 糖尿病神経障害 フットケア a
- d 動脈硬化性疾患 運動制限

答え (b) (c)

問 9. 糖尿病の運動療法について、正しいものを2つ選んでください。

- a. 運動の慢性効果として、インスリン抵抗性が改善する
 - b. 患者が元気そうであれば、医師によるメディカルチェックは必要ない ×
 - ☒ c. 日常生活でもこまめに身体を動かす、長時間座っていないようにする、エレベーターを使わない、なども大事である ✓
 - d. 運動した分、余計に食べることが出来る ×
 - ☒ e. 糖尿病腎症がある場合は、バルサルバ運動（息をこらえて力む運動）は行わない
- 答え (c) (e)

問 10. 糖尿病の薬物療法のある生活への支援について、正しいものを2つ選んでください。

- ☒ a. 2型糖尿病の女性が妊娠した場合、これまでの経口血糖降下薬をしっかりと継続して妊娠中も血糖管理を続ける ✓
 - b. SGLT 2 阻害薬は、腎臓での糖の再吸収を抑制し尿中に糖を排出することで血糖値を低下させる、インスリン分泌非促進系に分類される。
 - c. インスリン自己注射に適した部位は、吸収の早い順に、腹部、上腕部、臀部、大腿部である
 - ☒ d. インスリンは開封前も、使用開始後も必ず冷蔵庫で保管する ✓
 - ☒ e. GLP-1 受容体作動薬の適応は、すべての糖尿病患者で、インスリンと併用できる
- 答え (b) (d)

【症例問題Ⅰ】

A さん 50 歳 男性 身長 172 cm 体重 80 kg 自営業

今年 5 年ぶりに受けた健診で、空腹時血糖値が 285mg/dl であり、医療機関の受診をすすめられて妻と共に朝絶食で来院された。受診の結果、HbA1c8.6%、尿糖陽性、尿ケトン体陰性、抗 GAD 抗体陰性で 2 型糖尿病と診断され、まずは栄養指導を受けてもらうことになりました。

問 11. A さんへの療養支援として正しいものを2つ選んでください。

- ☒ a. 糖尿病に対する思いや、診断されてどう感じたかを丁寧に聴いて否定せず受け止める ✓
 - b. 糖尿病についての正しい知識を伝える中で、合併症の怖さについては特に強調して伝える ×
 - c. 糖尿病は本人の自己管理が大切なので、栄養指導は A さんのみ受ければ良いことを説明する ×
 - ☒ d. 栄養指導を受けるにあたり、食事調査票を渡し、普段の食事内容を記録してきてもらう ✓
 - e. 明日から毎日 1 万歩歩くことを勧める
- 答え (a) (d)

【症例問題Ⅱ】

B さん 52 歳 女性 主婦 身長 154cm 体重 55kg

40 歳時に 1 型糖尿病を発症し、超速効型インスリン（朝 10 単位・昼 8 単位・夕 8 単位）、持効型インスリン（夕 12 単位）で治療中。先月の HbA1c7.5%であった。本日は受診日で、7 時半にインスリンを注射し朝食を食べて来院した。9 時に採血をして待合室で診察を待っていたところ気分不良を感じたため、看護師に声をかけた。看護師が血糖測定したところ、血糖値 61mg/dl であった。

問 12. 外来看護師がまず行うべき対処法は何か。1つ選んでください。

- a 「診察まであと少しだから」と処置室のベッドで横になってもらう
- b すぐに生理食塩水の点滴を開始する
- ☒ c ブドウ糖 10g を服用してもらう
- d 本日の昼のインスリンは、打たないよう指導する
- e 昨夜の夕食内容を確認する

答え ()

問 13. B さんへの療養支援として適切でないものを1つ選んでください

- a 自己管理ノート（血糖記録）を一緒に確認し、振り返り、日常での低血糖がどれくらいの頻度で起きているか、どのような対応をしているかを確認する
- ☒ b 低血糖を起こした後は、1週間は運転を控えるよう指導する
- c 外出時はブドウ糖や糖質を多く含む食品、ID カードを携帯するよう指導する
- d 低血糖時の対応方法は、本人だけでなく家族にも説明し、緊急時の協力を依頼する

答え (b)

お疲れ様でした！